

〔 横浜市陶芸センター 〕
 令和4年度業務報告及び収支予算
 〔 シンリュウ株式会社 〕

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業
 を示します。
- ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯1棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396 m ² 登り窯延床面積 60 m ²
開館日	平成5年8月

2 指定管理者

法人名	シンリュウ株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成2年4月26日
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日まで
現指定管理者の 管理運営開始日	平成18年4月1日から

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

横浜市陶芸センターの役割は陶芸を通して、あらゆる世代が活躍できる魅力あるまちづくりに貢献する事を基本理念とし、多くの市民に陶芸に親しむ機会を提供できるよう活動してまいりました。市民の作陶技術向上の支援や、陶芸の普及を図りつつ、コロナ禍において柔軟で比較的安定的した管理運営業務を実施しました。また、令和4年度はこれまでの運営経験を活かしながら、次の4つの方針のもと運営を行いました。

1. 作陶講座を常に充実・向上させる

限りあるスペースを最大限活用しながら、ニーズに合わせた講座を開催し、講座ごとに改善点を見直し、より多くの方に陶芸に親しむ機会を提供しました。初めて陶芸を体験する方に向けた講座、より本格的な陶芸を学びたい方に向けた専門講座、全国陶芸産地の粘土・釉薬・焼成

方法を取り入れた全国のやきものを楽しむ講座等、システム作りに努め、積極的に講座内容の充実・向上に取り組みました。

2. 陶芸知識の基地化、次世代育成の支援を推進する

陶芸文化の拠点として、陶芸ライブラリーの充実（陶芸図書、デジタルアーカイブ）、子ども、陶芸愛好家・陶芸指導者からの相談対応、親子陶芸教室、要望に応じた団体教室（オーダープラン）、市内インターナショナルスクールへの出張教室等を開催しました。

3. 地域社会との連携に取り組む

コロナ禍での連携には制約がありましたが、隣接している三溪園や本牧市民公園、八聖殿と連携し、陶芸祭や共催企画を行い、地域の活性化に努めました。中でも、陶芸祭では作陶展の展示会場を三溪園の旧燈明寺本堂（重要文化財）で実施し、多くの市民の来場がありました。また、近年増加している災害に対応するため、緊急時の防災対策についても近隣施設、地域と連携しながら、安全・安心して作陶できる環境に取り組みました。

4. 環境に優しい施設を目指す

不良在庫を減らすための期間限定粘土・釉薬の予約販売の促進や、酸化金属を含む釉薬を下水に流さない取組み、大量の産業廃棄物となる使用済粘土のリサイクル等に取り組む、自然環境に配慮した施設運営を行いました。

（2）令和4年度の業務の方針の総括

ア 全体業務について

令和4年度の事業運営は、陶芸人口裾野拡大と作陶活動拠点施設の強化を目指し、指定期間第4期の初年度として、今後指定管理期間5年間における運営の基礎を再構築した年となりました。

あらゆる世代、ニーズに対応するため様々な講座を企画し、市民が陶芸に親しむ機会となるような講座を実施しました。陶芸祭、共催企画、団体教室、出張教室では近隣の施設と連携し、地域の活性化や、陶芸を媒介としたネットワーク構築推進に取り組みました。

持続可能性を高める施設運営として、日常的な施設建物・設備の点検、効率的な運営の努力を行い、粘土・釉薬の再生に取り組みました。また、1月、2月には横浜市と連携した施設の空調機更新工事により施設の作陶環境向上に繋がりました。

次年度以降も今年度事業運営について検証し、陶芸文化発信・拠点施設としての役割を果たせるよう事業運営に取り組めます。

イ 使命1 陶芸に親しむ機会を提供する

初心者（子供）から経験者、いろいろな方が陶芸に親しみ教室に参加しやすい講座を開催しました。自主事業講座を、①体験型教室、②基礎型教室、③自立型教室の3つに分類し、あらゆる人々に広く対応した様々なテーマの講座を実施しました。①、②において、新設した「ゆったり丸一日陶芸体験」や「入門講座」では、土練りから釉薬掛けまでを体験する特別カリキュラムを開催しました。多くの需要があり、多様な体験希望者に広く対応した講座となりました。

ウ 使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する

市民の主体的な作陶活動の支援として、①追求型講座と②専門技術習得講座の2つに分類し、より深く陶芸に取り組める場を提供し、アンケート調査や利用者からの声を聞き取り、改善点を分析し利用者の満足度向上に努めました。

エ 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

作陶活動の拠点として、①支援型講座、②共催企画の2つに分類し、企画・講座を設定することで地域施設と連携し、陶芸を介して様々な支援に取り組みました。

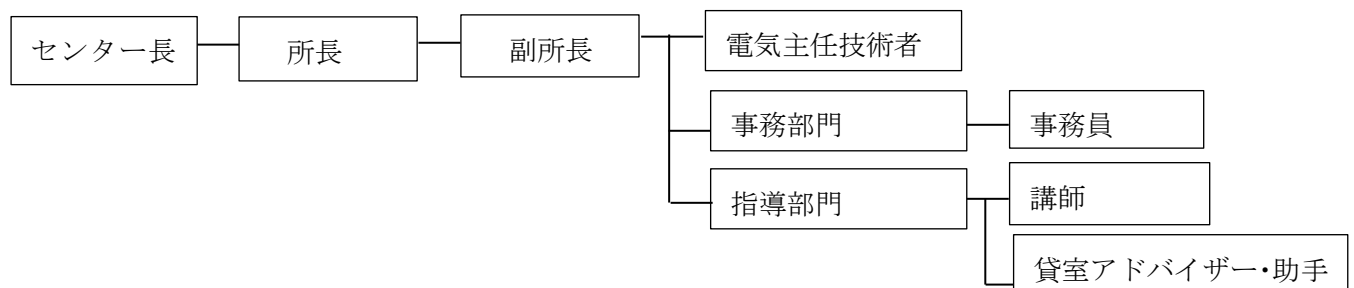
オ 使命4 持続可能性を高める施設運営を行う

持続可能性を高める取組みとして、①日常的な施設建物・設備の点検②環境に優しい施設維持管理③効率的な運営を行い、施設の安全・快適な維持管理と安定的な施設運営に努めました。

4 運営組織の構造、人員配置

項目	人数	備考
センター長	1人	全体総括責任者
所長	1人	事業・運営・管理・個人情報管理・全業務現場責任者
副所長	1人	講座運営企画・施設維持管理・備品管理責任者 緊急時所長代行・緊急時講師代行 防火責任者・広報・講師事務総括（事務、指導部門との調整）
事務員	2人	受付業務、ローテーション勤務
講師	11人	教室の指導、一部アドバイザー・助手兼務 ローテーション勤務
貸室アドバイザー・助手	6人	一部講師、助手兼務、ローテーション勤務
電気主任技術者	1人	電気設備点検・維持・管理

<組織図>



事務員、講師、貸室アドバイザー、助手をローテーション勤務体制とし、職務分担の徹底により効率的な業務遂行を実施しました。事務部門、指導部門との円滑な連携を図るため、講師も兼任できる技量をもつ社員を1名配置しました。

5 令和4年度の業務の取組

(1) 文化事業

令和4年度は①、②を重点的に取組みました。

- ① 親子陶芸教室、団体教室等、次世代育成に関する講座を実施しました。
- ② 市内の公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等に積極的に取組み、陶芸知識発信による基地化に努めました。

(2) 施設運営

令和4年度は①～⑥を重点的に取組みました。

- ① 貸室及び自主事業の利用者数について、今年度目標である年間12,255人を達成できませんでしたが、10,929人の利用がありました。
- ② 適切な施設運営のため年間356日の開館とし、利用者の便宜を図り利用促進に努めました。
- ③ 利用率増加のため、新規釉薬・粘土の導入に取組みました。
- ④ 利用者アンケートを活用した利用者サービス向上と利用を促進しました。
- ⑤ 限りあるスペースを最大限活用し、施設スペースの有効利用に取組みました。
- ⑥ 組織的な施設運営、効率的業務遂行、適切かつ効果的な勤務体制の確立に努めました。

(3) 施設管理

令和4年度は①～③を重点的に取組みました。

- ① 施設、設備等の適切な管理のため、修繕が必要と思われる箇所を常に洗い出し、出来る限り自前修繕で対応しながら高額修繕に備え、事業運営に支障が出ないように努めました。
- ② 陶芸センター周辺の環境を常に意識し、建物及び登り窯の管理に当たりました。
- ③ 汚泥量調査を実施し、適切な汚泥管理、環境維持に努めました。

(4) 収支

令和4年度は安定的な運営を行うため、魅力ある講座の開催、効率的な業務システムの構築、日常点検による小破修繕、在庫管理の徹底を重点的に取組みました。

(5) 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

令和4年度は日報、月間事業報告書、業務計画書、業務報告書を作成・管理するとともに、自己評価を行い、業務改善に取組みました。

(6) その他

令和4年度は法令の遵守、個人情報保護、情報公開について、適切に対応するとともに、横浜市との連絡調整を密にし、円滑な業務遂行に取組みました。

※5 (1) ～ (6) の具体的な取組内容は、指定管理業務計画表兼評価表に記載します。

6 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命1 陶芸に親しむ機会を提供する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	総来場者数	10929人	11000人				13000人	
2	次世代育成を目的とした事業の実施回数	5回	5回				7回	
3	各事業のターゲット設定(初心者、中級者等)及び事業参加者数に対するターゲットとなる参加者の割合(アンケート調査)	82%	60%				80%	
4	参加者の満足度(アンケート調査)	94%	70%				80%	
★	体験型教室	気楽に一日陶芸体験(手びねり)	7回/年	7回/年			7回/年	
			108人	84人			84人	
		気楽に一日陶芸体験(電動ロクロ)	7回/年	7回/年			7回/年	
			117人	84人			84人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験(手びねり)	5回/年	5回/年			5回/年	
			77人	60人			60人	
		ゴールデンウィーク陶芸体験(電動ロクロ)	5回/年	5回/年			5回/年	
			75人	60人			60人	
		ゆったり丸一日陶芸体験	7回/年	7回/年			7回/年	
			104人	84人			84人	
	5回/年	5回/年				7回/年		

		夏休み親子陶芸教室	97人	100人				140人	
6 ★	基礎型教室	陶芸入門4日間講座	5回/年	5回/年				5回/年	
			141人	120人				120人	
		陶芸入門3日間講座	1回/年	1回/年				1回/年	
			24人	18人				18人	
		陶芸入門2日間講座	1回/年	1回/年				1回/年	
			10人	12人				12人	
7 ★	自律型教室	自由作陶教室（10回コース）の開催	4回/年	4回/年				4回/年	
		利用者数	5380人	6358人				6720人	
		第2自由作陶教室（10回コース）の開催	4回/年	4回/年				4回/年	
		利用者数	243人	328人				328人	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の意見聴取及び分析	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命1を達成するために重点的に取り組む事項

幅広い年齢層に広く情報発信（周知）を行い、体験型教室において目標を上回る実績になりました。アンケート調査、利用者や指導現場スタッフの声を聞き取り、毎回改善点を分析することで、利用者の満足度向上に繋がりました。

(2) 使命2 市民の主体的な作陶活動を支援する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績	
1	貸館(貸室) 利用者数	3698人	3920人				4480人		
2	作陶に関する専門技 能や知識習得につな がる事業の実施回数	22回	17回				20回		
3	利用者満足度 (アンケート調査)	91%	70%				80%		
4 ★	追 求 型 講 座	全国やきもの講座	3回/年	2回/年			4回/年		
		利用者数	126人	70人			140人		
		還元焼成講座	4回/年	4回/年			4回/年		
		利用者数	270人	300人			300人		
		大物焼成講座	12回/年	12回/年			12回/年		
		利用者数	14人	24人			24人		
		作陶展	1回/年	1回/年			1回/年		
5 ★	専 門 技 能 習 得 講 座	電動ロクロ水挽き 徹底講座	1回/年	1回/年			2回/年		
		利用者数	39人	24人			48人		
		絵 付 け 講 座	上絵付 (3日間コー ス)	1回/年	1回/年			1回/年	
			利用者数	27人	18人			18人	
			染付 (1日間コー ス)	1回/年	1回/年			1回/年	
			利用者数	9人	6人			6人	
		招待作家講座	未実施	1回/年				1回/年	
		利用者数	0人	14人				14人	

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
		R 4 実績	実施
1	利用者の状況についての現状把握(利用者との意見交換等)	R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組む事項

陶芸産地の粘土・釉薬を気楽に体験できるように、新規の粘土・釉薬・焼成方法を取り入れた企画を実施しました。中でも全国やきもの講座では、陶芸産地の粘土(備前、信楽透光性陶土等)を取り入れ、陶芸の魅力を伝えることができました。

(3) 使命3 陶芸を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	技術向上、指導力養成、出張教室を実施した回数	3回	2回				5回	
2	地域の施設・団体等と共催・連携して実施する事業数	16事業	10事業				15事業	
3 ★	支援型講座	指導者研修講座	2回/年	2回/年			2回/年	
		利用者数	38人	48人			48人	
		団体教室(通常プラン)	9回/年	5回/年			8回/年	
		目標利用者数	141人	150人			240人	
		団体教室(オーダープラン)	3回/年	5回/年			7回/年	
		利用者数	49人	150人			210人	
		出張教室	1回/年	1回/年			3回/年	

		利用者数	8人	15人				45人	
4 ★	共 催 企 画	三溪園共催企画 (作陶展)	2回/年	1回/年				1回/年	
		目標利用者数	71人	30人				30人	
		本牧市民公園、 地域商店街との 共催企画	1回/年	1回/年				1回/年	
		楽焼体験教室 (陶芸祭体験)	1回/年	1回/年				1回/年	
		目標利用者数	25人	20人				20人	
		手びねり体験教 室(陶芸祭体 験)	1回/年	1回/年				1回/年	
		目標利用者数	18人	16人				16人	
		電動ロクロ体験 教室(陶芸祭体 験)	1回/年	1回/年				1回/年	
		目標利用者数	20人	16人				16人	
		陶芸文化鑑賞講 座 (隔年開催)	隔年開 催のた めR4 無し	1回/年				1回/年 隔年開催 R7実施予定	
		目標利用者数	隔年開 催のた めR4 無し	15人				15人	

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	連携したこ とによる関 係者の意見	R4実績	実施
		R5達成指標	実施
		R5実績	

	聴衆及び分析	R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	

ウ 使命3を達成するために重点的に取り組む事項

指導者研修講座では、受講後も気軽に陶芸についての質問・疑問に対応できるように、常時電話・メールでの受付を実施しました。陶芸祭、出張教室、団体教室では地域と連携した企画を実施し、地域の文化活動の活性化に尽力しました。

(4) 使命4 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数		0件	0件				0件	
2	法定点検等の実施率 100%		100%	100%				100%	
3	修繕予算の執行率 90%以上		99%	90%				90%	
4 ★	日常的な施設建物・設備の点検	施設建物目視点検	毎日	毎日				毎日	
		陶芸道具類のメンテナンス、在庫管理	週1回	週1回				週1回	
5 ★	環境に優しい施設維持管理	粘土・釉薬の再生(リサイクル)	月2回	月2回				月2回	
		粘土・釉薬を直接下水に流さない	毎日	毎日				毎日	
		排水溝・樹掃除	年2回	年2回				年2回	

		登り窯（レブリカ）の適切な管理	年9回 実施	2ヶ月 1回				2ヶ月 1回	
6 ★	効率的な運営の努力	早めの計画	週1回	週1回				週1回	
		業務マニュアルの見直しと改善	年1回	年1回				年1回	

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	管理運営費水準の要因分析	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	実施
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	実施
		R 8 実績	
2 ★	効率的な運営の努力	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	高額修繕の回避
		R 5 実績	
		R 6 実績	
		R 7 実績	
		R 8 達成指標	高額修繕の回避
		R 8 実績	

ウ 使命4を達成するために重点的に取り組む事項

施設・設備の毎日の見回り点検による小まめな修繕、定期的な施設の維持管理を確実に実施しました。効率的な運営を行うために、早めの計画とスケジュール調整、改善点の分析事項を運営に反映しました。

令和4年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	19,061,000		19,061,000	19,061,000	0	横浜市より
利用料金収入	4,200,000		4,200,000	3,333,800	866,200	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	14,000,000		14,000,000	17,276,727	△ 3,276,727	自主事業講座料・自主事業焼成費、自由教室・貸室粘土代・釉薬代
雑入	725,000	0	725,000	662,656	62,344	
印刷代	5,000		5,000	3,250	1,750	コピー代金
自動販売機手数料	120,000		120,000	123,440	△ 3,440	
駐車場利用料収入			0		0	
その他（ ）	600,000		600,000	535,966	64,034	受取利息・陶芸材料売上・雑収入
収入合計	37,986,000	0	37,986,000	40,334,183	△ 2,348,183	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	14,890,000	0	14,890,000	14,752,701	137,299	
給与・賃金	13,200,000		13,200,000	12,735,636	464,364	
社会保険料	1,250,000		1,250,000	1,422,617	△ 172,617	
通勤手当	390,000		390,000	539,019	△ 149,019	
健康診断費(福利厚生)	50,000		50,000	55,429	△ 5,429	
勤労者福祉共済掛金	0		0		0	
退職給付引当金繰入額	0		0		0	
事務費	3,703,000	0	3,703,000	3,579,681	123,319	
旅費	20,000		20,000	600	19,400	
消耗品費	600,000		600,000	1,237,800	△ 637,800	
会議賄い費	100,000		100,000	1,210	98,790	
印刷製本費	900,000		900,000	598,100	301,900	広告宣伝費・チラシ・パンフレット
通信費	350,000		350,000	307,405	42,595	電話料金・メール便・郵便料金
使用料及び賃借料	396,000	0	396,000	435,604	△ 39,604	
横浜市への支払分	180,000		180,000	219,604	△ 39,604	目的外使用料・ごみゼロルート回収費
その他	216,000		216,000	216,000	0	駐車場契約料
備品購入費	500,000		500,000	638,209	△ 138,209	事務用品他
図書購入費	20,000		20,000		20,000	陶芸ライブラリー用蔵書
施設賠償責任保険	117,000		117,000	55,976	61,024	
職員等研修費	20,000		20,000		20,000	
振込手数料	60,000		60,000	49,995	10,005	
リース料	350,000		350,000	90,255	259,745	電機炉・コピー機・電動ロクロ
手数料	270,000		270,000	164,527	105,473	会計ソフトサポート料・ネットバンキング
地域協力費	0		0		0	
事業費	11,564,000	0	11,564,000	11,852,771	△ 288,771	
自主事業（指定管理料充当の自主事業）費			0		0	
自主事業費	11,564,000		11,564,000	11,852,771	△ 288,771	陶芸材料仕入れ・業務委託料
管理費	5,308,990	0	5,308,990	5,104,461	204,529	
光熱水費	1,740,000	0	1,740,000	1,333,592	406,408	
電気料金	1,150,000		1,150,000	772,119	377,881	三相・200V、単相・100V電気料金
ガス料金	190,000		190,000	208,203	△ 18,203	プロパンガス・灯油窯用灯油代金
水道料金	400,000		400,000	353,270	46,730	
清掃費	2,200,000		2,200,000	2,182,510	17,490	
修繕費	500,000		500,000	493,415	6,585	備品・設備費・換気扇修理・電気炉上蓋修理
機械警備費	400,000		400,000	393,965	6,035	
設備保全費	468,990	0	468,990	700,979	△ 231,989	
空調衛生設備保守	210,000		210,000	207,900	2,100	定期保守点検・室内送風機洗浄他
消防設備保守	88,000		88,000	88,000	0	
電気設備保守	150,000		150,000	286,000	△ 136,000	電気炉他保守点検・電気設備取付・保守・電流計更新
害虫駆除清掃保守	11,000		11,000	20,409	△ 9,409	
駐車場設備保全費			0		0	
その他保全費	9,990		9,990	98,670	△ 88,680	水道メーター更新
共益費			0		0	必要に応じて支出
公租公課	1,400,010	0	1,400,010	1,639,610	△ 239,600	
事業所税			0		0	事業所床面積と従業者数が標準に満たないため
消費税	1,400,000		1,400,000	1,637,400	△ 237,400	実績に基づく試算
印紙税	0		0	2,200	△ 2,200	印紙
その他（ ）	10		10	10	0	受取利息からの納税分(国税)
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	1,120,000	0	1,120,000	1,260,569	△ 140,569	
本部分	360,000		360,000	1,069,200	△ 709,200	本社労務管理費等
当該施設分	760,000		760,000	191,369	568,631	そのほかの事務用品費
二一ス対応費			0		0	
支出合計	37,986,000	0	37,986,000	38,189,793	△ 203,793	
差引	0	0	0	2,144,390	△ 2,144,390	